

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

氏名	高橋甲枝	職名	准教授	学位	修士(看護学)
----	------	----	-----	----	---------

研究分野	研究内容のキーワード
急性期・回復期の技術教育 がん看護 運動器疾患を持つ患者の看護 家族看護	<ul style="list-style-type: none"> 看護技術教育 乳がん患者の就業支援 運動器疾患を持つ患者のQOL

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> がん患者の就労支援ニーズについて文献レビューを行い、協力病院の倫理審査の結果、調査を実施する。 笹月准教授を中心に看護・福祉・栄養学科の学生のプロフェッショナルリズム形成に関する調査研究のために、インタビュー結果の検討を行っており、今後、学生を対象に調査を行う予定である。 急性期看護技術教育研究を行う予定で、文献レビューを行っていく予定である。

担当授業科目
初年次セミナーⅠ(前期) リハビリテーション看護学(前期) 救急クリティカルケア看護学(前期) 成人・老年看護学演習(前期) 看護研究の基礎(前期) 看護総合演習(前期) 看護総合実習(前期) 初年次セミナーⅡ(後期) 成人急性期看護方法論(後期) 成人・老年看護学実習(後期) 救急・クリティカルケア看護学演習(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【初年次セミナーⅠ】前期15コマ、30時間 副担当として、シラバス作成、シート作成、評価表作成を行った。 ① スタディスキルズ(聞く、調べる、読む、書く、考える)の修得は、ミニレポート作成からレポート作成へとレベルをあげ段階をおってすすめた。レポート作成にはグループ学習を取り入れ、学生間でコミュニケーションをとり意見交換しながら取り組むようにした。 ② 毎回の講義の概要や疑問点・調べたことなどを500字程度にまとめさせた。また、学修ポートフォリオを作成させ、主体的学習を促すとともに学修の達成状況をチェックした。 ③ 学習修得に向けモチベーションの向上を目指し、学外の実習施設(医療機関)から実習指導者を招き講演をしていただいた。 ④ 科目の評価視点は、DPにそって評価指標を作成し、事前に学生に明示し説明を加えた。各自に印刷物として配布した。 ⑤ 情報倫理や図書・文献の検索法などの講義は、情報課および図書課と連携し行なった。 ⑥ 本科目は10名の教員で担当する科目である。詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容及び成績評価に差が出ないようにした。

<p>授業科目名【リハビリテーション看護学】前期 15 コマ, 30 時間 (13 コマ, 26 時間担当)</p> <p>リハビリテーション看護学は、3 年次前期開講科目である。2 名の教員で担当している。2 年次までに学んだ疾病論、急性期看護学方法論、慢性期看護学方法論、老年期看護学方法論と密接に関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に上記科目と密接に関連する科目であること、範囲が広いことを伝えている。昨年度の課題であった外部講師との講義内容の重なりを精選して、講義のゆとりを確保したことで、学生への講義内容の充実につながった。さらに、今年度よりストマケアの演習を導入し、より実践を考えた構成とした。</p>
<p>授業科目名【救急・クリティカルケア看護学】前期 15 コマ, 30 時間 (5 コマ, 10 時間担当)</p> <p>救急・クリティカルケア看護学は、3 年次前期開講科目である。2 名の教員で担当している。集中ケア看護認定看護師の講義を取り入れ、学生が興味・関心を持てるように工夫を行った。救急・クリティカルケアの場面では、尊厳死、倫理的な葛藤について考える機会が多いため、事例をもとに展開を行い、倫理的要件について考える機会とした。</p>
<p>授業科目名【成人・老年看護学演習】前期 30 コマ, 60 時間</p> <p>成人・老年看護学演習は、看護過程と看護技術の演習である。3 年前期に看護過程演習および看護技術演習を行っている。看護過程演習は、昨年度までは慢性期事例と急性期事例の 2 例であったが、実習への繋がりを考慮し、本年度は急性期事例 (胃がん)、慢性期事例 (肝硬変)、老年事例の 3 例を展開した。今年度も看護過程演習の講義・演習の担当を行い、演習計画立案、事例検討および模範解答の作成を領域教員と行い教員の指導に違いがでないように調整を行った。学生から課題が多いという指摘を受けた。しかし、実習では在院日数の短い患者の看護過程の展開は演習よりも速いことを伝え、そのための基盤づくりであることを最初に強調したい。</p> <p>看護技術演習は、食品交換表、ADL、ドレーン管理、血糖測定、手術後の観察演習の 5 項目からなる。手術後の観察演習はシミュレーション演習を行っている。演習回数を 2 回に増やし、学生がゆとりを持って演習ができるように変更を行った。また、実際臨地で使用している物品等を使用し、模擬患者を用いて臨場感を持たせた演習を行った。4 年生の模擬患者の導入と実際の物品を使用することは学生の興味関心を引き学びに繋がると考えられる。</p>
<p>授業科目名【看護研究の基礎】前期 15 コマ, 30 時間</p> <p>主担当として講義・演習を行った。今年度よりテキストを導入し、卒業後も研究は必要であり、その際に戻る場所となるように考えた。3 名の教員で講義を行い、さらに、教員 5 名で演習を担当し、2 グループの指導を行った。リサーチクエスチョンを見いだすところから、そのための文献検索指導を行い、看護研究計画書作成指導を行った。さらに、今年度は計画書にそった、質問紙作成、同意書作成を行い、実際に対象者に説明を行い、調査、集計という一連を体験する試みを行った。</p>
<p>授業科目名【看護総合演習】前期 15 コマ, 30 時間</p> <p>看護総合演習では、5 名の学生を担当した。個々の学生の課題達成のために、消化器外科、循環器外科、手術室、胸部外科で実習を行った。事前に実習計画書の指導および技術指導を行った。また、学生が事前に実習指導者と調整を行うなどの経験を通して社会人としての対応も学ぶことができるように病棟との調整を行い、学生にも指導を行った。</p> <p>実習終了後、ケーススタディとしてまとめることができた。まとめた論文をもとに発表を行い、評価を行うことができていた。</p>
<p>授業科目名【看護総合実習】前期 2 週間 (臨地 7 日間)</p> <p>看護総合実習では、5 名の学生を担当した。個々の学生の課題達成のために、消化器外科、循環器外科、手術室、胸部外科で実習を行った。事前に実習計画書の指導および技術指導を行った。</p> <p>学生は積極的に実習を行っており、事前学習を活かして実習に臨むことができていた。</p> <p>実習終了後、ケーススタディとしてまとめ評価を行うことができていた。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナーⅡ】後期 15 コマ, 30 時間</p> <p>主担当として、シラバス作成、シート作成、シラバスに相当する評価表の作成と運営を行った。</p> <p>① 初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズ(聞く、調べる、読む、書く、考える)の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。</p> <p>② 個人ワーク、グループワークを取り入れた演習を行なった。具体的には、グループで一つの課題に取り組み、章立てし、各自が一つの章を担当して一つの冊子づくりを行なった。冊子づくりを行なうことで、各自が全体を把握しながら自分の担当に責任をもち取り組むことができたと思う。</p>

- ③ さらに、上記冊子にまとめた内容について、レジュメ作成、パワーポイント作成、発表原稿作成を行ない、プレゼンテーションをさせた。課題発見から発表までの一連のプロセスをグループで取り組むことで、他者の意見を聞き、自分の考えを述べる機会となり、スタディスキルズ(聞く、考える、討論する)の強化につながった。また、司会・進行など経験させることで、役割意識をもたせた。
- ④ 評価は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示して説明を加えた。学生は自己評価を行ない、自己の振り返りを行なうことができていた。
- ⑤ 本科目は 10 名の教員で担当する科目である。初年次 I 同様に詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容および成績評価に差がでないようにした。さらに、プレゼンテーションでは、教員 2 名～3 名で評価を行なうことで、評価に差がでないようにした。

授業科目名【成人急性期看護方法論】後期 15 コマ, 30 時間 (7 コマ担当)

成人急性期看護方法論は、2 年次開講科目である。2 人で講義を担当した。本科目はこれまでに学んだ形態機能学、疾病論、成人老年看護概論などの科目と関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に既習の科目の復習を行い、講義に臨むように説明を行った。急性期看護の概論では、手術を受ける患者の身体侵襲時の生体反応についての解説、手術を受ける患者の心理面について事例をもとに解説を行った。他に呼吸器、婦人科疾患で手術を受ける患者の看護について解説を行い、モデル人形を用いるなど、視覚的・感覚的に学習する機会を取り入れた。

授業科目名【成人・老年看護学実習】前期 3 週間 2 クール 後期 3 週間 4 クール

成人・老年看護学実習は従来の 2 週間実習に ICU および手術室見学実習を導入し 3 週間実習とした。病棟実習では、既習の知識が、実際の患者を通して知識が統合されるように関わった。助教の先生の学生への指導が的確に行われるように、看護診断、関連因子、徴候の確認や看護計画の目標、計画、根拠について確認を行い、学生への指導に繋がるように調整を行った。実習中に問題がある学生については、面接を行い、助教の先生方と教育の方向性を統一するように心がけた。また、最終日には個人面接を行い、個人の課題を明確にすることで次の実習に繋げるように努めた。ICU および手術室見学実習では、事前課題の提出を求め、学内オリエンテーション時に気管挿管の説明や滅菌ゴム手袋の装着演習を取り入れた。実際の物品をもとに説明を行うことで目的や方法についての理解に努めた。

授業科目名【救急・クリティカルケア看護学演習】後期 15 コマ 30 時間

3 名の急性期の教員で演習を行った。演習では救急・クリティカルケア領域における倫理的な問題についてグループワーク、発表を行い看護師のジレンマについて考える機会とした。また、集中ケア認定看護師による実際の人工呼吸器を用いた説明および拘束性肺疾患の体験と人工呼吸体験を行い、患者の苦痛の理解と看護を深めるように努めた。

授業科目名【看護総合演習】前期 15 コマ 30 時間

看護総合演習では、急性期・回復期 6 名の学生を担当した。演習では学生の実習に対する目的を明確にし、主体的に学ぶように心掛けた。実習前には、自分たちで実習に必要な事前課題を明確にさせ、学生同士でミニ講義を行い、学習の共有を図った。また、実習に必要な基本的な技術(清潔の援助、点滴管理)や消化器病棟、手術室、救急部で必要な技術演習(観察、心電図など)を行い、実習に備えた。さらに、実習後は論文形式でレポート作成の指導を行った。

4 年生は就職および国家試験を控えているため、学習支援と就職活動の相談・指導を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会会員		1987 年 4 月～(現在に至る)
日本公衆衛生学会会員		1995 年 5 月～(現在に至る)
日本看護研究学会会員		2004 年 7 月～(現在に至る)
日本看護科学学会会員		2004 年 7 月～(現在に至る)
日本看護技術員		2011 年 4 月～(現在に至る)
日本運動器看護学会員		2015 年 2 月～(現在に至る)

2018年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開	西南女学院大学 共同研究費	1,067,000円	○田川辰也、 近江雅代、 境田靖子、手嶋英津子、 石井愛子、 田中貴絵、 浅野嘉延、 <u>高橋甲枝</u> 、 稲木光晴、 日高勝美、辻澤利行
看護・福祉・栄養学科の学生のプロフェッショナルリズム形成に関する調査研究	西南女学院大学 附属保健福祉研究所		○笹月桃子、 谷川弘治、通山久仁子、 <u>高橋甲枝</u> 、 松岡真里（高知大学）、 濱田裕子（九州大学）

乳房切除を受けた患者の就労に対する支援ニーズの検討	西南女学院大学附属保健福祉研究所	307,600円	○高橋甲枝 大嶋満須美 笹月桃子 後藤元子（製鉄記念八幡病院）
---------------------------	------------------	----------	------------------------------------------

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
<ul style="list-style-type: none"> ・西南女学院大学は、「食べ物と健康」の立場から、九州歯科大学は、「口腔保健」の視点から、公開講座を開講時に学生ボランティア募集および血圧測定・酸素飽和度測定支援 ・「ゆめみらいワーク」にて、学生とともに企画・運営を行った。 		

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
就職委員：2018. 4. 1～2019. 3. 31 1年生アドバイザー：2018. 4. 1～2019. 3. 31 4年生（ゼミ）アドバイザー：2018. 4. 1～2019. 3. 31